

新聞新報

2005年(平成17年) 12月15日 木曜日

地震 宮城沖

震度予測地図に入力ミス

地震調査委 南北の座標軸取り違い

政府の地震調査委員会は14日、宮城県沖地震が発生した場合を想定して、2003年6月に公表した同県内の震度予測地図(強震動評価)に「データの入力ミスがあった」として予測地図の修正版を発表した。

それによると、修正前の地図と比べ、一部地域で予測震度が1階級変わり、最大震度が6強以上と予想される自治体は5市町から3

市町に減少。6弱・6強以上と予想される区域が1割ほど減った。一方で、仙台市太白区や角田市では最大震度が5強から6弱に上がり、栗原市や大郷町でも6弱の区域が大幅に広がった。

ミスを犯したのは、防災

科学技術研究所(茨城県つくば市)地震の揺れを増幅

させる軟らかい地層の厚さのデータを、1キ四方の区域ごとに入力する際、南北

の座標軸を180度逆に取り違い、全区域で誤ったデータをを入力したという。